

## ありがとう

松木<sup>まつき</sup> 皇君<sup>おうきみ</sup>

「だいすきなたいこをたたきたい。」

ぼくは、ちいさいころから、きりしまくめんだいこがすきになりすぎて、たたくところをみるだけじゃなくて、じぶんでもたたきたくなくなって、はじめのころはおもちゃのたいこをたたいていました。きいたりみたりしてくめんだいこのきよくをしぜんとおほえてきました。

まいにちたたいていたらおもちゃのたいこはこわれてしまいました。

それからは、みるくのかんやびあののいすをたいこのようにたたいていました。

えんそうをききにいつては、まえにおほえたところのつぎをちゃんとおほえてかえろうといっしょうけんめいみました。

それしたら、たくさんたたけるようになりました。

まわりのひとたちやおともだちから、「しろうがっこうはどこにいくの。」ときかれるようになりました。

ぼくは、「たいこがたたけるがっこうにいくんだ」と、いつていました。

それしたら、くめんだいこのひとたちがしろうがっこうでおしえてくれるということ

しました。

だから、ぼくはたいこがたたけるがっこうがあつてくめんだいこのひとたちがおしえてくれるというのでぜったいにそのがっこうにいきたいとおもうようになりました。

けれど、そうするためにはひっこさなければいけないというおおきなもんだいがありました。

ぼくは、おとうさんとおかあさんに、じぶんのおもっていることをつたえてみました。それから、ごはんをたべているときやくるまにのつているときにそのはなしをたくさんするようになりました。

ほいくえんをそつえんするまでにはひっこさないといけなかつたからやすみのひにふどうさんやさんについておうちをみてまわりました。

そしてやつとおうちがきました。

ことしの4がつかからたいこがたたけてくめんだいこのひとたちがおしえてくれるதாகちほしようがっこうにかよっています。

ぼくのはなしをきいてくれてひっこしてくれてたいこのおうえんをしてくれるおとうさんおかあさんにいっぱいありがとうをいいたいとおもいます。

なつやすみのさいごにたいこまつりでたいこをたたくときにありがとうのおもいをたくさんこめてたたきたいとおもいます。

いつもありがとう。